

2020年1月29日

各位

株式会社新生銀行
代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
(コード番号 : 8303 東証第一部)

持続可能な社会の構築に向けた法人ビジネスの新たな取り組みについて ～「サステナブルインパクト推進部」の設立～

当行は、持続可能な社会資本の資金循環を促進する金融ソリューションの提供を通じて、社会・環境課題の解決に向けた役割を果たしていくことを目的として、2月1日付で「サステナブルインパクト推進部」を新設し、法人ビジネスにおける新たな取り組みを推進していきます。

近年、地球環境や社会システムの持続可能性への取り組みが大きく注目されており、環境課題と経済・社会的課題の同時解決に対する金融機関への社会的要請も日々高まっています。新生銀行グループでは、これまで再生可能エネルギーに対するプロジェクトファイナンス、介護・医療関連施設への融資および新生企業投資株式会社によるインパクト投資^{※1}の推進などを通じて、社会・環境課題の解決に資するプロジェクトや事業者への投融資に積極的に取り組んできました。

「サステナブルインパクト推進部」では、持続可能性や ESG/SDGs の観点に、環境・社会・経済など社会全般に対して正のインパクトをもたらすことを目的とする社会的インパクトの概念を融合させた「サステナブルインパクト」を推進していくためのさまざまな取り組みを行います。

サステナブルインパクト推進部の取り組み方針

(1) サステナブルファイナンス^{※2}の企画・営業推進

- 顧客の環境・社会課題解決に資する事業やイノベーションを伴う新たな事業展開を加速推進するためのサステナブルファイナンスに関する商品・サービスを開発・提供します。
- 以下の評価モデルを踏まえた投融資先に対する貸出枠などの設定により、社会課題に対して正のインパクトをもたらす投融資先や事業に対して投融資の推進を図ります。

(2) 当行独自の評価モデルおよび評価・管理体制の構築

- 「サステナブルインパクト推進部」の内室として「サステナブルインパクト評価室」を設置し、同室にて顧客との継続的な対話(エンゲージメント)を前提に、持続可能性や ESG/SDGs、社会的インパクトを包括的に評価する当行独自の評価モデルを構築します。
- 絶え間なく変化する環境・社会課題に関連する顧客の重要課題と向き合い、リスクへの対応やビジネス機会の検討をサポートするため、投融資における環境・社会関連リスク管理の高度化を図ります。

(3) 機関投資家向け運用商品の開発・供給

- 持続可能性や ESG などと親和性が高い当行のストラクチャードファイナンスを中心とした投融資を活用し、これらの観点を重視する機関投資家の投資需要に即した運用商品の開発・供給を進めていきます。

新生銀行グループは、社会課題に対する正のインパクトの創出をサポートし、持続可能な社会の形成に貢献することで、当行グループの持続的な企業価値の創出を図ります。また、「サステナブルインパクト」を意識した具体的な行動によって、新生銀行グループ全体のコーポレートブランドの確立を目指していきます。

※1 インパクト投資とは、社会課題の解決に資する企業に対する投資を行うことを通して、経済的リターンと社会的リターンの両立を目指す投資を指します。

※2 サステナブルファイナンスとは、環境、社会、ガバナンスといった非財務情報を考慮した投融資や金融ソリューションを指します。これにより気候変動をはじめとする環境問題や社会問題の改善など、持続可能な社会の形成を目指すものです。

以上

お問い合わせ先
新生銀行 グループ IR・広報部
下村、紀、風間
Tel.03-6880-8303